

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町提出日	平成25年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kihon=true&JievosvoCd=2470100435-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 12 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスを併設しているため、地域の情報が入りやすく、毎日変化の有る日々を送ってられます。立地にも恵まれ、周囲には緑が多く、施設のそばには、池があり、2階の居室からの眺めは、心を落ち着かせてくれます。訪れる方からも環境の良さをお褒め頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな団地の中ではあるが、緑一杯の公園と大きな池が事業所の側にあり、事業所そのものが公園の中にあるように感じる。併設している認知症対応型のデイサービスの利用者と生活を共にしているところから、地域との交流も盛んで、地域の清掃活動等利用者も一緒に行なっている。事業開始から10年以上経ち、地域との連携・交流も盛んで、地域の中の1軒の家になって来ている。また毎月1回、利用者ごとの支援経過と「すずらんだより」が家族に送付され、事業所と家族を結ぶ絆となっている。職員の異動も少なく、家族的な雰囲気一杯の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同、利用者の尊厳を常に考え、その人らしい暮らしが続けられるように日々、話し合いを行い、協力している。	理念はグループホームの入り口である階段を上がったところに大きく掲げてあり、会議や研修の都度、「自分が利用者だったらどうか」「笑顔になってもらうにはどうすれば良いか」等について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りや清掃活動に出来るだけ参加したり、近隣のお宅へ職員と一緒に回覧板を持っていく等をして地域の方との交流を行っている。	自治会の清掃活動には、職員・利用者共に参加し、草取りなどを行っているし、散歩中に会った近隣の方や子ども達とは挨拶を交わしている。また地域の太正琴や踊りのボランティア団体の来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者やご家族からの疑問・質問があれば、認知症ケアに関する研修や実践を踏まえたアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、現況報告や話し合いを行い、各々の立場からいただいた意見をまとめ、サービス向上に活かしている。	出席メンバーの中に普段懇意にしている方もおられ、毎回なごやかな雰囲気での会議になっている。現況報告だけでなく、避難訓練や熱中症予防等内容も充実してきている。	メンバーの中に民生委員や地域代表の方もおられるが、出来れば老人会とか自治会長さんの参加もお願いしてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、活動状況を伝え、市役所の方々からのアドバイスを受けながら、協力して頂いている。	市役所との直接の行き来は少ないが、運営推進会議出席の担当の方を通して、各種アドバイスや協力をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしないということを前提にケアをしているが、止むを得ない場合は、家族の方に許可を取る等して、配慮している。	現状は身体拘束が必要な状況はないが、毎月研修をし拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会を開いて職員の意識を高め、利用者の心身の状態の変化等に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社長及び関係機関の方やケアマネージャーと検討会を年に1回程度、開催するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の内容を、家族の方にわかりやすく内容を説明し、理解、納得していただいた上で、契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見、要望あるいは苦情等については、申し送り等で管理者、職員間で共有し、改善に努めている。事業所内には「ご意見箱」を設置している。	面会時に意見・要望をいただいたり、運営推進会議に家族代表の出席があり、意見を頂いている。また事業所のイベントにはほとんどの家族が参加するので、その時にも意見交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、各棟の管理者が集まり、情報交換を行っている。又、問題が発生したり、改善を行った場合は、随時、話し合える距離感である。	管理者は、月1～2回開催する会議で職員の意見を吸い上げ、それを法人の全体会議で報告するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や個々の労働状況を把握した勤務体制をとり、職員が働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内で研修を行っている。又、外部研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事業所数が多いため、法人内での各事業所との連携には努めているが、地域の同業者とは運営方針等に違いが有るため、交流を図っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と接する事で、ご本人の様子を観察し、会話をする事で、一人ひとりの意見や心境を確認している。会話が困難な方は、家族から昔の様子等の話を伺い、安心して生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安な事柄、要望を十分に聴き、共に考え、支援出来るよう、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いにおいて、最優先される支援は何かを考え、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の尊厳を常に考え、ひとりの人間として、そして人生の先輩として接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子を毎月発行している「すずらんだより」で報告したり、行事等をお知らせして参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会に来て頂けるような雰囲気作りや、家族の方による外出・外泊等を勧めている。	家族の協力を得てなじみの洋服店や喫茶店への外出はあるが、地域の馴染みの人や場所との関係が入居年数と共に薄れてきている。それに代わって併設のデイサービスの利用者との関わりが多くなってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイサービスが併設されていることもあり、みんなが会話や、レク活動でのゲームを楽しんだり出来るよう、職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ケアマネージャーは必要に応じて本人、家族の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、会話をすることにより、利用者との距離を縮め、信頼関係を築き、一人ひとりの思いや希望を聞いて、意向の把握に努めている。	機会を捉えて会話をするようにしており、入浴時は1対1であり、リラックスすることもある本音の出ることが多い。また毎朝みんながそろった時に、何が食べたい？クリスマスプレゼントは何がいい？など問いかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族から今までの暮らしぶりを伺ったり、担当のケアマネージャーから情報をいただく等して職員全体で経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で絶えず、利用者の心身状態、その他、気がついた事は、お互い情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士では、日頃から話し合いは行っている。面会に見えた家族とお話をして現状報告をする等して計画作成をしている。	日頃から職員や家族からの情報や意見をまとめており、毎月のモニタリングにも生かし、計画書作りをしている。また利用者各人毎に、健康状態や生活状態、行動などについてまとめた「ご利用状況報告書」を毎月家族に送っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌に日々の様子を記入したり、場合によっては、「ヒヤリハット」による再確認を行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者には、忙しい家族に代わって、病院へ行き洗濯物の入れ替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な人形劇や大正琴のボランティアグループ訪問により、楽しみを持って頂いている。又、低料金での移動美容室が来所している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月近くの病院から往診に来ていただき、医師と利用者の信頼関係ができています。	利用者全員が協力医をかかりつけ医として、各協力医とはよい関係作りが出来ており、内科医は毎月、歯科医は随時、眼科は2ヶ月に1回の往診がある。また薬局とは薬を配達してくれる関係である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との連携に努め、夜間対応及び相談業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を図り、ご家族の希望を優先にし、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で家族とは終末期に対する考えを話し合っている。また、終末期になった場合は、日々家族と連携を図り意向の確認を行っている。	入居時点で利用者・家族と話し合っている。重度化した場合は、家族の意向の確認と同時に、法人内の看護師と連携を取り合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に緊急対応時のマニュアルを参考に研修を行い、AEDの使い方等を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、入所者、職員全員で避難訓練を行っている。又、警報が出された際は、自治体等、近隣の協力が得られるようお願いします。	消防署員立会いの下に、火災による避難訓練を夜間想定を含め行っているが、地震対応の訓練は未実施である。水や食料の備蓄は出来ている。	近い将来、大規模地震が来ると予測されている。建屋の強度確認を含め、万一の場合に備え、地震発生時の対応訓練(特に夜間想定)を実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、常に利用者の誇りやプライバシーを念頭に置き、日々の介護にあたっている。随時、職員間で話し合い、反省したり再確認をしている。	言葉かけには常に注意しており、特に排尿に関しては「チェック表」をもとに、大きな声でなく、さりげなく声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分にコミュニケーションをとり、出来る限り本人の思いや希望を聞き取りその実現に向けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を大切にし、その人に合った過ごし方が出来るよう、職員側もゆとりを持って「寄り添う介護」が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、あるいは希望に応じて美容室を招き、散髪して頂いている。又、衣類のほころびや寸法直しその他、手直しをして、大切な衣類をお守りしてる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いたり、おしぼりを並べたり等、簡単な準備はお手伝いをお願いしている。手伝えない方も食事を楽しみにしている。	調理担当職員がメニュー作りから、食材購入、調理を行なっている。一般家庭と同じく全て手作りであり、知人からの野菜やミニトマト等の差し入れもあり、利用者全員が完食である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じメニューでも、その人に合わせて、ペースト状やとろみをつける等して摂取しやすく、栄養バランス、水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、声かけや誘導により、歯みがき、入れ歯の掃除、うがいをしていただき、嚥下が悪い人には、食事介助の後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行い、食べ物が口の中に残らないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握しトイレへ誘導したり、声かけを行っている。必要に応じて、排泄が終わるまで、見守りをして安全な自立排泄の支援している。	自立の方もいれば、見守りの必要な方もおられる。いずれの方にも個々人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導・見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな人が多く、主治医から指示を受け、処方された薬を服用していただいている。又、水分補給に努め、本人でも出来る簡単な腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決めているが、利用者の状況やその日の状態により変更することもあり、柔軟な対応をしている。個々の状態に合わせた、介助で安心して入浴を楽しんで頂いている。	利用者全員が入浴が好きで、週3回は入浴されている。ユズ湯や入浴剤を入れて楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、しばらくの間、それぞれ自室でくつろがれ、お昼寝をされる方や絵等を描いたりして、リラックスされている。夜間は徘徊する方もなく、安眠が得られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の説明や薬の説明書を読んで、理解を深め、利用者の状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の洗濯干しや取り込みのために職員と屋外へ出て気晴らしをしたり、取り込んだ洗濯物をみんなで協力してたたむことで、昔の主婦時代を思い出して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、車椅子やシルバーカーを利用して皆で散歩に行き、そこで、外気浴の間、指体操や歌を唄って、気分転換を図っている。又、お花見には毎年、家族参加で楽しんでいただいている。	事業所の前に大きな池があり、周囲が公園や散歩道になっているので、天気の良い日はみんなで散歩に出かけている。家族の協力で喫茶店に行ったり、花の季節にはお弁当を持って遠出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々からの預かり金で買い物の代行をし、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの希望があれば、間違い等のないよう職員がお手伝いをし、目的が達せられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、皆で作ったその季節の貼り絵、リビングには習字やぬり絵等の作品を飾って、居心地の良い空間作りに努めている。	2方向が窓になっている食堂兼居間は明るく広い。居間は併設のデイサービスと共用となっていて、大きなソファが置いてあり、くつろぎの場所になっている。玄関や壁には、季節を感じさせる利用者の作品や書道が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが利用者様の交流の場となっており、自由に移動していただける空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作った作品を飾ったり、ご家族の写真や飾りやと自宅でくつろいで頂いている様な雰囲気作りをしている。	居室は全て2階にあり、主として休む(寝る)時だけ上がって使用している。窓からは池や公園の木々が見え、景色は非常によい。ベッドの他にテーブルや椅子があり、壁には写真や手作りの作品を飾るなどして居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時には、職員が見守りを行い、視力の弱い方には声かけによる案内をし、手すりや杖の利用もして頂きながら、安全に目的場所へ移動できるようにしている。		